

吉良川伝統的建造物群保存地区整備計画

- 《みち》空間の再構築を中心として - (要旨)

高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻社会システム工学コース
1095532 渡辺 仁志

1. 本計画策定の背景と目的

1.1. 本計画策定の背景

室戸市吉良川伝統的建造物群保存地区（以下、吉良川伝建地区という。）は、西の川と東の川に挟まれた約900mの旧道沿いの浜地区の両側に、近代に建築された伝統的な商家及び民家が立ち並んでおり、1997年10月31日に重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建と記す。）に選定され、以降、様々なまち並み保全事業を行ってきた。

表1 吉良川における10年間の実施事業内容表

年度	事業	実施内容	面積	費用
H6	伝統的建造物群保存地区指定			
H7	あるまの文化遺産保存推進事業(国・道)			
H9	あるまの文化遺産保存推進事業(県・市)			
H10	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道)	案内板設置(2ヶ所)		
H11	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道・市)	町並み駐車場及び公衆トイレ建設用地取得(市)		
H12	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道・市)	町並み町並み資料館設置		町並み駐車場及び公衆トイレ建設・施設利用活性化促進事業
H13	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道)			
H14	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道・市)			
H15	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道)			
H16	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道)			
H17	重要伝統的建造物群保存地区保存事業費国庫補助(国・道・市)	資料館設置		

しかし、現在、1. 伝統的形式建物が滅失、老朽化している、2. いしぐろが滅失、老朽化又、ブロック塀へと変わっている、3. 地区の60.0%が接道不良道路に面している、4. 活用されていない空地がある、といったような課題が挙げられる。

1.2. 本計画策定の目的

そこで、選定から10年が経過する2007年からの再出発として、新たに吉良川保全整備計画を策定することとなった。本修士計画では、その保全整備計画の一環として、歴史的まち並みとしての《みち》空間の再構築の計画を策定することを目的とする。

1.3. 計画の全体構成

本計画策定の構成は図1のとおりである。



図1 計画策定の構成

2. 吉良川地区の現況と問題点・課題

2.1. 現地調査方法

今回、吉良川の現状を知るためまち並み調査を行った。それらの結果より吉良川の問題点・課題点を整理した。

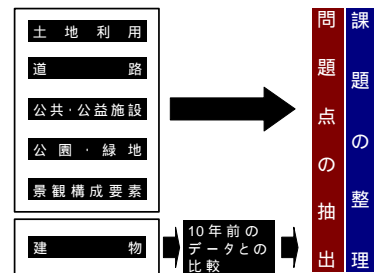


図2 現地調査方法

2.2. 土地利用の現況

吉良川地区における土地利用現況を以下に示す。



図3 土地利用の現況

表2 土地利用現況表

	面積(m ²)	比率(%)
住宅地	88227.72	52.1%
併用住宅地	3398.697	2.0%
商業用地	2051.303	1.2%
倉庫	718	0.4%
公共用地	4583.55	2.7%
畑	36229.06	21.4%
文教・厚生用地	19536.98	11.5%
河川敷	6301.4	3.7%
空き地	6685.548	3.9%
公共空地	1563.48	0.9%
合計	169295.7	100.0%

2.3. 道路の現況

吉良川地区における道路現況を以下に示す。



図4 道路現況図

表3 道路現況推移表

	1995年		2005年		10年間での変移		
	面積(m ²)	比率(%)	面積(m ²)	比率(%)	面積(m ²)	比率(%)	
道路	6.0m以上	4044	30.5%	4044	29.7%	0	0.0%
	4.0~6.0m未満	3772	28.5%	4860	35.7%	1088	8.2%
	2.7~4.0m未満	2631	19.9%	1897	13.9%	-734	-5.5%
	1.8~2.7m未満	1504	11.4%	1504	11.1%	0	0.0%
	1.8m未満	1296	9.8%	1296	9.5%	0	0.0%
合計	13247	100.0%	13601	100.0%	354	2.7%	

2.4. 公共・公益施設の現況

吉良川地区における公共・公益施設現況を以下に示す。



図5 公共・公益施設現況図

表4 公共・公益施設現況推移表

	種数	比率(%)	種数	比率(%)	種数	比率(%)
公民館・集会所	6	33.3%	8	40.0%	2	11.1%
医院・歯科医院	4	22.2%	4	20.0%	0	0.0%
駐在所・消防署	2	11.1%	2	10.0%	0	0.0%
銀行・郵便局	2	11.1%	2	10.0%	0	0.0%
その他	3	16.7%	3	15.0%	0	0.0%
合計	18	100.0%	20	100.0%	2	11.1%

2.5. 公園・緑地の現況

吉良川地区における公園・緑地現況を以下に示す。



図6 公園・緑地現況推移図

表5 公園・緑地現況推移表

公園緑地	1995年		2005年		10年間での変移	
	面積(m ²)	比率(%)	面積(m ²)	比率(%)	面積(m ²)	比率(%)
公共空地	1563.48	100.0%	1563.48	100.0%	0	0.0%
合計	1563.48	100.0%	1563.48	100.0%	0	0.0%

2.6. 景観構成要素(いしぐる)の現況

吉良川地区における景観構成要素(いしぐる)現況を以下に示す。



図7 景観構成要素(いしぐる)現況推移図

表6 景観構成要素(いしぐる)現況推移表

いしぐる	1995年		2005年		10年間での変移	
	面積(m ²)	割合(%)	面積(m ²)	割合(%)	面積(m ²)	割合(%)
いしぐる	1392.5	82.1%	1297.81	81.1%	-94.69	-5.6%
いしぐる+玉石	137.16	8.1%	137.16	8.6%	0	0.0%
いしぐる+瓦付	58.66	3.5%	58.66	3.7%	0	0.0%
いしぐる+玉石+瓦付	107.47	6.3%	107.47	6.7%	0	0.0%
合計	1695.79	100.0%	1601.10	100.0%	-94.69	-5.6%

2.7. 建物の現況

吉良川地区における建物現況を以下に示す。



図8 伝統的形式建物現況図

表7 伝統的形式建物棟数割合表

2005年		
伝統形式別建築物	棟数	比率(%)
	193	46.2
	225	53.8
	418	100.0

2.8. 吉良川地区の問題点・課題点

吉良川地区の問題点・課題点を以下の表に示す。

表8 吉良川地区の問題点・課題点

問題点	課題	
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 地区内に空き地が多く、景観や土地利用の点において問題である 地区内に倉庫・廃墟がある 	<ul style="list-style-type: none"> 空き地を有効活用し、ポケットパーク等、憩いの空間を設置する 使用されていないものは撤去する 倉庫は地区の景観に合わせたものに修繕する
道路	<ul style="list-style-type: none"> 地区の60.0%が狭小道路に面しており、車の利用には不便である 狭小道路に車が入ってくると、人と車があたりそうになる 旧道において路上駐車が多い 旧道において汚水の臭いがする 舗装されていない道路がある 来客者用駐車場が病院の利用者でいっぱいである 地区の防災マップに載っている非難ルートの幅員はほぼ4m未満である 神社の境内を通らなければならないルートがある 	<ul style="list-style-type: none"> 車社会への対応と歴史的景観道路の保全のバランスをとる 住民用駐車場整備 路上駐車防止の対策を考える 電柱の地中化 現在の浄化槽を調べ、臭いの原因を突き止める 住民による溝、浄化槽の清掃 地区の景観にあったものは安全性を考慮しながら保全する。それ以外は地区の景観にあった形で舗装する 新たな駐車場整備を検討する 地区幹線道路の設置 境内への車両進入を禁止し、別のルートを確認する
公共・公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 吉良川まち並み資料館とお祭り館が廃止される 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな施設の設置を設置する
公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> 運動公園までのアクセス悪い 	<ul style="list-style-type: none"> アクセスを改善し、防災公園として整備する
いしぐる	<ul style="list-style-type: none"> 遊具が効果的に配置されていないため、視点場としての機能を低下している 消滅、老朽化したいしぐるがある 	<ul style="list-style-type: none"> 現在ある遊具を効果的に配置し、視点場として整備する 歴史的まち並み景観を将来に継承するためのいしぐるを継承するためのいしぐるを保全する
建物	<ul style="list-style-type: none"> 10年間で地区から10棟の伝統的形式建物が失われた 老朽化した伝統的形式建物が多く見られる 景観にそぐわない新築建物が建てられた 	<ul style="list-style-type: none"> 消滅の危機に直面した伝統的建築物にターゲットを絞り保全できていない 修繕・修復の優先順位を決める 高さ・色彩・デザイン等において調和を乱す新築を抑制できていない

3. 《みち》空間の再構築計画

3.1. 《みち》空間の再構築計画における方針

3.1.1. 吉良川における《みち》空間の構成要素

《みち》空間における空間構成要素としては、公共空間である「道路」、半公共空間である「建物の外壁」、「塀」、「空地・井戸」となっている。『道路のみでなく周りに存在する要素も含んで』《みち》空間とする。



図9 《みち》空間の構成要素

3.1.2. 《みち》空間の再構築計画の方針

前述の構成要素を踏まえ、吉良川における《みち》空間の再構築計画における方針は、以下とする。

「人からの視点をメインとした吉良川を感じられる心地の良い場づくり」

3.2. 計画策定のゾーン別分類

「伝建地区にふさわしい《みち》空間づくり」を行っていく。

吉良川の水切瓦、土佐漆喰等を有する伝統的形式の建物やいしぐるといった特徴を生かし、それらを感じるのにふさわしい空間を再構築していくために以下、4ゾーンに区分する。



図11 ゾーン別計画フロー図



図12 計画のゾーン図

3.3. 前提としての道路計画

《みち》空間の再構築の前提としての道路計画図を以下のとおりである。



図10 前提としての道路計画図

整備内容は、以下の6点である。

1. 電柱の地中化
2. 車道の舗装 (吉良川における舗装例がないため、舗装は吉良川の砂の色である濃い灰色を使用する)
3. 歩道を設置
4. 街灯、ストリートファニチャーを設置
5. ブロック塀を黒板塀に変更
6. 洋風建築や地区の景観に合わない外観の建物を伝統的建築様式を用い修景
7. 自動販売機や屋外空調機等をルーバーによって隠す

このように歴史的景観にあうまち並みとして整備することで、吉良川の伝統的な空間がより際立ったものとなる。

3.4. 「水切瓦のみちゾーン」の計画



図13 水切瓦のみちゾーン

旧街道は、伝統的建築が多く残る場所である。これら、建築物を保全し、まちの顔としての空間を保つことが重要である。そこで、旧街道を水切瓦のみちゾーンは、デザインコードに基づく伝統的建築物の保全や、コミュニティ道路化等を行う。

以下に「水切瓦のみちゾーン」における整備前と整備後を示す

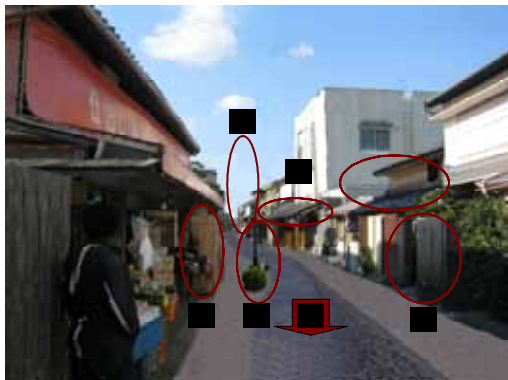


写真1 整備後のイメージ写真



写真2 舗装例の写真

3.5. 「いしぐろのみちゾーン」の計画



図14 いしぐろのみちゾーン

いしぐろの多く残る道を「いしぐろのみちゾーン」として整備する。このエリアに残るいしぐろを保全することを第一に考え、それとともに、昔の景観を取り戻すべく、いしぐろを再生する。

整備するいしぐろの種類としては、吉良川の独特の形式である玉石や玉石瓦付きを積極的に使用する。



写真3 いしぐろのみち整備前と整備後

整備内容は、以下の3点である。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ページュのカラー舗装（いしぐろの色とのバランスを考え、見た目には土に見えるような質感の素材を使用する） 2. ブロック塀をいしぐろへと変化 3. 昔、いしぐろであった場所にいしぐろを整備 |
|--|

このようにいしぐろを整備し、歴史的な雰囲気をかもし出し、昔の吉良川の姿を取り戻す。

3.6. 「シンボルとしての神社境内ゾーン」の計画



図15 シンボルとしての神社境内ゾーン

御田八幡宮は吉良川地区においてシンボルとして大きな存在である。しかし、現在は境内に車両が進入しているため、様々な面で悪影響を及ぼしている。そこで、神社境内への車両進入を禁止にする。それにより神社としての厳かな空間と歩行者の安全を確保する。

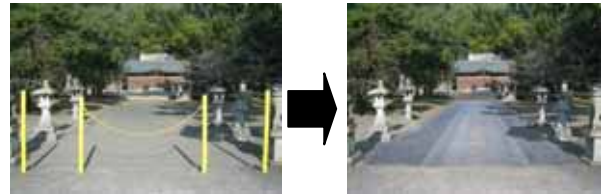


写真5 神社境内整備前と整備後

整備内容は、以下の2点である。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在まで景観を阻害していた鉄の棒を撤去。 2. 参道の舗装を変更（舗装に関しては、高い格式として、認知されているマス目の大きい舗装や砂利を使用する） |
|--|

これらの整備により、御田八幡宮を地区のシンボル空間とする。

3.7. 「辻広場ゾーン」の計画



図16 辻広場ゾーン

吉良川地区には多くの井戸が残っている。これら吉良川に点在している井戸を、辻広場として整備する。



写真6 辻広場整備前と整備後

整備内容は、以下の4点である。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ブロック塀を生垣に変更 2. 敷地内の舗装を変更 3. 植樹を行い、広場としての景観を形成 4. ベンチ等を置き、くつろげる空間を設置 |
|---|

これらのスペースを設け、地区の憩いの場を創出する。

3.8. ゾーン別計画の整理

計画の全体を図 17 に示す。また、以下にゾーン別の計画の表 9 を示す。



図 17 計画の全体図

表 9 ゾーン別計画表

	＜家並みのあまろゾーン＞	＜いしむらみ景観ゾーン＞	＜タコヤシの緑地景観ゾーン＞	＜緑地ゾーン＞
【建物】	・伝統的形式の建物を保全する ・(みち)空間から見て、地区にふさわしい景観にしてい ・老朽化した建物を修繕していき ・老朽化した建物を修復・修築していき	・いしむらみとしての景観として、改善できるものは改善し歴史的な景観を取り戻してい ・		
【境界】	・ブロック塀を黒板塀や伝統的素材に変えていき ・境界内から見える樹木や花は保全してい ・花壇を設置するなど、景観として美しいものを設置してい	・ブロック塀を従来あったいしむらみに変える ・いしむらみは、吉良川独特の瓦つき土蔵や土倉半蔵を活用する ・境界内から見える樹木や花は保全してい	・道路との境界である、鉄の棒を取り除き、神社からの海からの景観としてのアプローチを改善する ・現在ある鳥居、石の塀を保全する	・塀を用いる際は、板塀やいしむらみなど伝統的素材を設ける
【道路】	・道路舗装を行う ・歩道を設け、道路との舗装を変える ・狭さを設け、広くなった部分の歩道にストリートファニチャーを設ける ・電柱の地中化を行う	・カラー舗装を行う	・境内の自動車道は取り除く	
【広場】			・神社としての景観を残すため、中の空間はあまり手をつけない	・井戸を活用し、井戸端の広場としての雰囲気を作る ・ベンチ等を設ける ・広場内の舗装を変える

これらの空間を整備することにより、「吉良川を感じられる心地良い場所づくり」、「伝建地区にふさわしい《みち》空間づくりができたといえる。

5. 本計画の今後の活用方法

本計画は、高知工科大学内に吉良川まち並み保存研究会を組織し、県の文化財課、地域支援企画員の方と連携をとりながら、計画案の作成を行ってきた。そして、その計画案を室戸市や吉良川保存会の住民の方と話し合い、案をつめてきた。

今後、この計画は、室戸市役所に提出し、これからの吉良川におけるまち並み景観形成計画のタタキ台として使用し、最終的に室戸市としての「吉良川伝建地区保全整備計画」となる。

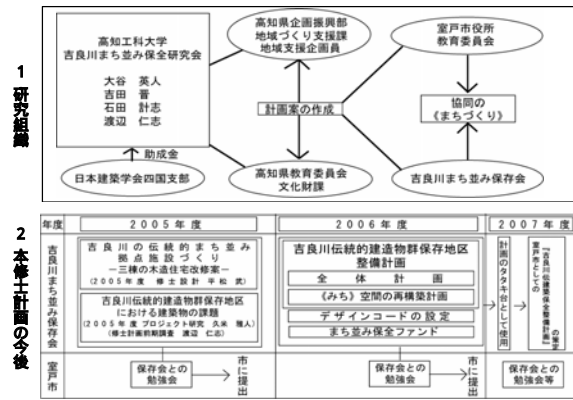


図 18 研究組織と本修士計画の今後の活用方法

引用・参考文献

- ・吉良川まちなみ調査特別委員会（1996年）『伝統的建造物群保存対策調査報告書 吉良川の町並み』 室戸市教育委員会
- ・西村幸夫（1992年）『まちなみ保全型まちづくりとは』 社団法人日本建築学会 『まちづくり教科書 第巻 まちなみ保全型まちづくり』 丸善株式会社
- ・光井 渉（1995年）『伝統的建造物群保存地区の目的と進め方』 大河直躬 『都市の歴史とまちづくり』 株式会社学芸出版社
- ・船井幸雄（2006年）『まちはよみがえる』 株式会社ビジネス社
- ・都市防災実務ハンドブック編集委員会（2005年）『改定 都市防災実務ハンドブック 震災に強い都市づくり・地区まちづくりの手引き』 株式会社ぎょうせい
- ・苅谷勇雄（1999年）『伝建地区制度の可能性』 全国町並み保存連盟 『新・町並み時代 まちづくりへの提案』 株式会社 学芸出版社
- ・建設省道路局（1983年）『コミュニティ道路』 道路整備促進期成同盟会全国協議会
- ・地区交通研究会（1987年）『みち まち アメニテイ - 地区交通計画の考えと実践 -』 社団法人 日本交通計画協会
- ・町並み委員会（1988年）『川越一番街 町づくり規範』

Master Thesis, 2006

**Redevelopment project for traditional monument conservation area of
Kiragawa
- Restructuring for interspace of way -
(Abstract)**

Course of Infrastructure System Engineering, Graduate School Engineering,
Kochi University of Technology
1095532 WATANABE Hitoshi

Back ground

Kiragawa was selection traditional monument conservation area October 31 in1997.

And then, this area implementation of the project on conservation program

9 years passed from selection traditional monument conservation area. It Currently have 4 problems.

1. Traditional construct is extinguishment or damage
2. Ishiguro is extinguishment damage or change the block wall
3. A lot of narrow streets in this area (60.0%)
4. A lot of useless open spaces

Purpose

This plan Purpose is create the plan of reassembly of<<road>>area in Kiragawa Therefore, it necessary for create the plan of land scape.9years passed from selection traditional monument conservation area and come under the influence of climate of the Kochi with this situation in mind create the plan with the emphasis on<<road>>area,

Plan

Set up the basic concept based on problem.

Concept is 「 **Create the <<road>>area appropriate for traditional monument conservation area** 」 .

I make the plan for conservation old historic town based on Concept. Contents of the plan is outline the below

1. Plan of road of Mizukirigawara
2. Plan of road of Ishiguro
3. Plan of shrine area of town symbol
4. Plan of common area